紫式部

「繰り言（名）の（格助（体修））やうに（助動（比況・連用））は（係助（強調））侍れ（補動（丁寧・已然））ど、（接助（逆・確定））尽き（動（カ上二・連用））

も（係助（強意））せ（補動（サ変・未然））ず（助動（打消・連用））うらやましく、（形（シク・連用））めでたく（形（ク・連用））侍る（補動（丁寧・連体））は、（係助（提示））

大斎院（名）より（格助（起点））上東門院、（名）『つれづれ（名）慰み（動（マ四・連用））ぬ（助動（強意・終止））べき（助動（適当・連体））物語（名）や（係助（疑問））

候ふ。』（動（丁寧・連体））と（格助（引用））尋ね（動（ナ下二・連用））参らせ（補動（謙譲・連用））給へ（補動（尊敬・已然））り（助動（完了・連用））

ける（助動（過去・連体））に、（接助）紫式部（名）を（格助（対象））召し（動（尊敬・連用））て、（接助）『何（代名）を（格助（対象））か（係助（疑問））参らす（動（謙譲・終止））

べき。』（助動（適当・連体））と（格助（引用））仰せ（動（尊敬・未然））られ（助動（尊敬・連用））けれ（助動（過去・已然））ば、（接助（順・確定））

『めづらしき（形（シク・連体））もの（名）は、（係助（提示））何（代名）か（係助（反語））侍る（動（丁寧・連体））べき。（助動（推量・連体））新しく（形（シク・連用））

作り（動（ラ四・連用））て（接助）参らせ（動（謙譲・連用））給へ（補動（尊敬・命令））かし。』（終助（念押し））と（格助（引用））申し（動（謙譲・連用））

けれ（助動（過去・已然））ば、（接助（順・確定））『作れ。』（動（ラ四・命令））と（格助（引用））仰せ（動（尊敬・未然））られ（助動（尊敬・連用））

ける（助動（過去・連体））を、（格助（対象））承り（動（謙譲・連用））て、（接助）源氏（名）を（格助（対象））作り（動（ラ四・連用））たり（助動（完了・連用））

ける（助動（過去・連体））こそ、（係助（強意））いみじく（形（シク・連用））めでたく（形（ク・連用））侍れ。」（補動（丁寧・已然））と（格助（引用））言ふ（動（ハ四・連体））人（名）

侍れ（動（丁寧・已然））ば、（接助（順・確定））また、（接続）「いまだ（副）宮仕へ（名）も（係助（強意））せ（動（サ変・未然））で（接助（打消））里（名）に（格助（場所））

侍り（動（丁寧・連用））ける（助動（過去・連体））折、（名）かかる（動（ラ変・連体））もの（名）作り出で（動（ダ下二・連用））たり（助動（完了・連用））

助動（過去・連体）格助（拠所）動（ラ四・連用）接助 動（尊敬・未然）助動（受身・連用）接助 接続 名
ける に より て、召し出で られ て、それゆゑ 紫式部

格助（引用）動（八四・連体）名 係助（提示）動（カ下二・連用）助動（完了・終止）格助（引用）係助（添加）
と いふ 名 は つけ たり と も

動（謙譲・連体）係助（提示）代名 係助（疑問）名 助動（断定・連用）接助（補助）補動（丁寧・未然）
申す は、いづれ か まこと に て 侍ら

助動（推量・連体）代名 格助（体修）名 格助（体修）名 格助（引用）動（八四・連体）名 動（丁寧・連用）
む。そ の 人 の 日記 と いふ もの 侍り

助動（過去・連体）格助（場所）係助（添加）動（謙譲・連用）助動（過去・連体）名 副助（時期）
し に も、『参り ける 初め ばかり、

形（シク・連用・ウ音便）係助（並列）形（ク・連用）係助（並列）接続 形（シク・連用・ウ音便）係助（並列）
はづかしう も、心にくく も、また、添ひ苦しう も

補動（ラ変・未然）助動（推量・終止）助動（現在推量・終止）格助（引用）名 動（八四・已然）
あら むず らむ と、おのおの 思へ

助動（存続・連用）助動（過去・連体）名 格助（時間）副 形動（ナリ・連用）動（カ四・連用）形動（ナリ・連用）
り ける ほど に、いと 思はずに ほけづき、かたほに

接助 名 格助（対象）副助（類推）動（カ四・未然）助動（打消・連体）名 助動（断定・連用）
て、一文字 を だに 引か ぬ さま なり

助動（過去・已然）接助（順・確定）副 動（八四・未然）助動（打消・終止）格助（引用）名〈接尾〉
けれ ば、かく 思は ず と、友だちども

動（八四・未然）助動（尊敬・終止）副助（引用）係助（強意）動（ヤ下二・連用）接助（補助）補動（丁寧・已然）
思は る。』など こそ 見え て 侍れ。」